

ふじのくに「茶の都しずおか」推進計画



平成 27 年 3 月

静岡県

はじめに

茶の生産量及び流通量ともに日本一の本県は、本県の有する茶に関連する歴史、文化、景観など優れた資源、先人から受け継がれてきた高い技術力、お茶の消費が根付いた生活スタイルなどの「場の力」を活かして、静岡茶の持つ様々な魅力を発信するため、平成25年度に、「ふじのくに『茶の都しずおか』構想」を策定するとともに、県民の皆様とともに「茶の都しずおか」づくりを進めるために「ふじのくに『茶の都しずおか』憲章」を制定しました。

平成26年度には、構想に定めた文化、生活、学術、産業、観光、人材育成、情報発信、拠点づくりの8つの推進方向に沿って、「茶の都しずおか」を具体的に推進するために、「ふじのくに『茶の都しずおか』推進会議（会長：静岡文化芸術大学長 熊倉功夫氏）」の御意見を伺いながら、「茶の都しずおか」推進計画をまとめました。

今後は、この推進計画に基づいて、本県から「茶の都しずおか」のさまざまな情報を世界に発信し、本県茶業の振興につなげてまいりたいと考えております。

静岡県経済産業部茶業農産課長

ふじのくに「茶の都しずおか」憲章

私たちは、「茶の都しずおか」を目指し、次の世代に茶を継承していくため、固い決意のもと、ここに「ふじのくに茶の都しずおか憲章」を定めます。

- 一、 お茶の文化を守り育てましょう
- 一、 お茶の産業を一層発展させましょう
- 一、 お茶の機能を学んで健康になりましょう
- 一、 お茶を通しておもてなしの心を育みましょう
- 一、 お茶を通して平和な社会を築きましょう

ふじのくに「茶の都しずおか」に住む我々は、5か条を心にとどめ、毎日、ありがたく、お茶をいただきます。

静 岡 県

目次

文化	茶文化の継承と創造	1
	1 茶の歴史や文化を学べる環境づくり	
	2 新たなお茶の楽しみ方の創造と発信	
	3 お茶を活用した食育（茶育）	
生活	お茶のある豊かで健やかな暮らし	4
	1 お茶と和食文化を組み合わせた静岡らしい和の食文化の定着	
	2 緑茶を飲む習慣と健康長寿の一体的推進	
	3 お茶を楽しむ場所・機会の増加	
学術	茶に関する学術研究の推進と研究情報の集積発信	6
	1 茶に関する研究の推進	
	2 研究情報の集積と発信	
	3 茶の歴史・文化に関する資料の収集と展示	
産業	日本一の茶産地としての静岡の茶産業の振興	8
	1 地域の核となるビジネス経営体の育成	
	2 魅力的な「静岡茶」づくり	
	3 茶の販売と流通の強化	
観光	お茶の魅力発信と静岡らしいおもてなし	12
	1 世界遺産（富士山、和食文化、茶草場農法）を活用した魅力の発信	
	2 お茶で迎える静岡らしいおもてなし	
	3 グリーンティーツーリズムの推進	
	4 茶の機能性や効用を学ぶ場づくり	
人材育成	人材の育成と組織連携	15
	1 人材の育成	
	2 茶関係団体が一体となった取組	
	3 市民活動との連携	
情報発信	ふじのくに「茶の都しずおか」から国内外に発信	17
	1 世界お茶まつりの開催	
	2 （公財）世界緑茶協会による情報の集積と発信	
拠点づくり	ふじのくに「茶の都しずおか」の拠点づくり	19
	1 「茶の都」の中心としての機能を持った拠点づくり	
参考資料	ふじのくに「茶の都しずおか」推進会議	22

推進方向 1 茶文化の継承と創造

1 茶の歴史や文化を学べる環境づくり

(1) 日本の茶文化、世界の茶文化が学べる場づくり

- ・ 誰もが身近に茶の歴史や文化に触れ、学ぶことができるよう、県内各地に残っている茶に関連した歴史的建造物や製茶機械、文献などの資源の維持保存を図り、その情報発信と一部収集展示を行う。
- ・ 日本や世界の茶文化を気軽に学び、触れ、楽しむ場を拠点において設置する。
- ・ 日本の茶文化や歴史を学ぶことができるよう、茶業団体や大学などと連携してセミナーの開催や日本茶インストラクターによる出前講座等を実施する。
- ・ 小中学生が、茶の歴史や文化についての知識を得るとともに、茶業への理解を深めるため、分かり易い冊子を作成し、広く活用する。



(2) 伝統ある茶道の文化の情報発信

- ・ 海外の人々に茶道の魅力を伝えるため、「世界お茶まつり」や海外の展示会等において、茶道の点前披露や体験茶会を開催する。
- ・ 茶道の歴史や奥深さ等を学び、茶道文化を継承する人材を育成するため、茶道各流派の協力を得て、県内の茶文化体験施設と連携し、小・中・高・大学生（留学生含む）の茶道体験ができる機会を創出する。
- ・ 煎茶道についても広く紹介する。
- ・ 茶会やお稽古において、県内産の抹茶の使用を促進するため、静岡県茶道連盟と連携し、県内産抹茶のPRを行う。
- ・ 茶道に親しむ方を増やすため、初心者向けの説明つき茶会を開催する。



2 新たなお茶の楽しみ方の創造と発信

(1) お茶を楽しむ新たなスタイルの提案

- ・ 洋菓子と緑茶、フランス料理と緑茶、斬新なお茶の淹れ方など、現代の洋風化した食生活や簡便化がすすむ生活様式にあったお茶の楽しみ方などを専門家と連携して提案し、イベントなどを活用して紹介する。
- ・ 気軽に淹れたての美味しいお茶が飲めるよう、茶業団体と連携し、茶専門店を中心に給茶スポットを増やしていく。
- ・ お茶を飲みながら楽しい時間を過ごすことができる場を増やすため、緑茶カフェの出店を促進するためのセミナーや講座を開催する。また、多くの人に利用してもらうために、緑茶カフェを紹介するマップを作成する。

※緑茶カフェ:緑茶とお菓子の組み合わせを楽しめる喫茶店



(2) 器、お菓子、お茶を組み合わせたおしゃれなお茶の楽しみ方の提案

- ・ 茶器や花、菓子等とお茶をコーディネートし、おしゃれにお茶を楽しむしつらえや飲み方等を専門家と連携してイベント等で提案・紹介する。
- ・ 日常的にお茶を楽しめるよう、新しい茶器や、お茶とスイーツを組み合わせたコンテストを茶業団体や菓子販売者と連携して実施する。コンテスト入賞の組み合わせを、イベントの喫茶にて紹介する。



3 お茶を活用した食育（茶育）

(1) お茶についての学習を通じて、食文化、食と健康、茶の生産、おもてなしの作法などを子どもたちに身につけてもらう機会の創出

- 子供たちのお茶に対する理解を深めるため、茶業団体や生産者などと連携し、小中学校での出前講座の実施や、茶摘み・製茶・淹れ方などを体験できる機会を創出する。
- 小さい頃からお茶に親しみ、お茶を通して和の食文化、食と健康への関心を高めるよう、教育委員会などに働きかけ、学校給食でお茶を飲むことができる環境整備を推進する。
- 産地の特徴あるお茶を知ることができる闘茶会や、お茶への知識や淹れ方の技術を楽しんで学ぶことができるコンテストを開催する。
- 学校において、お茶を活用した食育の推進役となる人材を育成するため、学校教諭や栄養士等を対象に講座を開催する。
- 小さい頃からお茶の味に親しむよう、幼児の親を対象に、本県の食材とお茶を取り入れた和の食を学ぶ講座を開催する。
- 茶文化体験施設と連携し、小・中・高校生の茶道体験を通じて、礼儀やおもてなしの作法を学ぶ機会を創出する。



推進方向2 お茶のある豊かで健やかな暮らし

1 お茶と和食文化を組み合わせた静岡らしい和の食文化の定着

(1) お茶と豊富な地場の食材を活かした和の食文化の推進

- ・ お茶と和の食文化の一体的な推進を図るため、ふじのくに食の都づくり仕事人と連携し、豊富な食材を活かした和の食と、それにふさわしいお茶を組み合わせ提供する。
- ・ 静岡の食材を数多く取り入れた和の食を楽しみ、お茶をたくさん飲む食生活が健康に結びつくことへの理解を深めるため、セミナー等により周知する。
- ・ 静岡らしい和の食文化の定着を図るため、食に係るイベント等において、和の食とお茶を一体的にPRする。
- ・ お茶と和の食を一体とした「和食給食」の導入を推進するため、ふじのくに食の都づくり仕事人や生産者、栄養士などと連携して、地域の食材を活かした献立を作成するとともに、教育委員会や学校に働きかけ、給食時にお茶を出すための環境整備を推進する。
- ・ 家庭において和の食の料理を推進するため、若い母親を対象にしたセミナーや調理体験教室などを開催する。
- ・ 本県の豊富な食材とお茶をセットにした和の食を、学校給食へ導入するため、大学や調理学校と連携した学校給食のコンテストを実施する。



(2) 現在の生活スタイルにマッチした新たなお茶の楽しみ方の提案

- ・ 簡便にお茶を愉しんでもらえるように、おいしいティーバッグやドリップ・ティーなどの商品化や、冷茶の普及を進める。
- ・ あまりお茶を飲まなかった若い世代にも受け入れられるよう、おしゃれな感覚でお茶を飲むことや、癒しやくつろぎなどをキーワードにした、新たなお茶の楽しみ方の提案募集を茶業団体と連携して行い、イベントや雑誌などにおいて広く紹介する。また、大学のゼミ(演習)を活用するなど、若い世代の意見をとり入れる。
- ・ 味や水色だけでなく、香りも楽しめるような新しいお茶を開発し、商品化を進める。また、食茶や茶を添加した食品など食材としての茶の利用を促す。



2 緑茶を飲む習慣と健康長寿の一体的推進

(1) 健康福祉、教育分野と連携したお茶の健康機能性の周知

- ・ 学校給食でお茶を出すことが、お茶を飲む習慣の始まりともなることから、教育委員会へ、給食にお茶を出せる環境整備を働きかける。
- ・ お茶と健康についての理解を深めるため、子供たちがお茶の持つ機能性や効用を学ぶ機会を、教育委員会や茶業団体と連携して創出する。



(2) 緑茶消費量、健康寿命ともに日本一を誇る豊かな暮らしの継承

- ・ 茶と健康の結びつきについての周知を図るため、お茶の消費量が多い本県が、健康寿命日本一であることを、健康福祉部局とも連携しパンフレットの活用やセミナー等によりPRする。

3 お茶を楽しむ場所・機会の増加

(1) 緑茶カフェの増加

- ・ 誰もが気軽にお茶を楽しめる場の周知を図るため、茶業関係団体と連携し、県内の「緑茶カフェ」について、HPでの紹介や、情報誌への掲載、紹介マップ等を作成し、広くPRする。
- ・ おいしいお茶とお菓子を楽しめる「緑茶カフェ」の出店を促進するために、茶業関係者へビジネス講座やセミナー等の情報の提供を図る。
- ・ 地域独自のお茶を楽しむ活動を広く周知するため、「縁側カフェ」や「牧之原茶無料カフェ」のような活動について、市町や茶業団体と連携し、ホームページやメディアを活用して広く情報発信する。



(2) 各地域、関係団体によるお茶を楽しむ茶会や茶関連イベントの開催推進

- ・ 多くの人にお茶を楽しんでもらうために、各地域や市民団体が行う茶会やイベント等の情報を拠点において集積し、広く情報発信する。
- ・ 静岡茶の消費拡大につなげるため、県内企業に「静岡茶ファン倶楽部」への登録を呼びかけ、県内における茶関連イベント等の情報を発信する。

推進方向3 茶に関する学術研究の推進と研究情報の集積発信

1 茶に関する研究の推進

(1) 茶の生産・加工

- ・ 消費者ニーズの多様化に対応するため、茶業研究センターで開発が進められた香気発揚技術を活用した香り高き緑茶（静岡型発酵茶、第三の煎茶）の普及推進を図るため、その製茶法を取得する講座を開設する。また、香味についての表示法等の確立を図る。
- ・ 製茶時間を削減できるCTC緑茶製法の普及に向け、研究会や講習会を開催する。
- ・ 環境にやさしい茶業を推進するため、点滴施肥や局所施肥等、環境保全型農業の技術の確立とその普及を関係団体と連携して推進する。

(2) 茶の機能性・効用

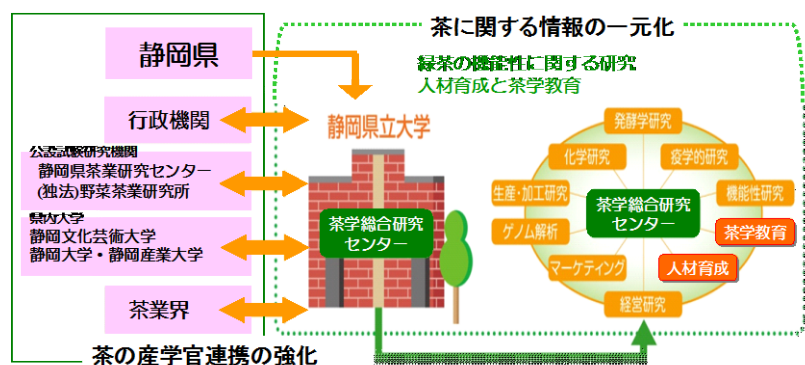
- ・ 個々に行われている茶の機能性・効用の研究について、静岡県立大学「茶学総合研究センター」を核に、情報の一元化を図るとともに、相互に連携した取組ができるよう、茶学総合研究センターへの支援を行う。
- ・ 茶の機能性・効用に関する研究を促進するため、定期的に研究成果を取り纏める。
- ・ 茶の機能性や効用についての理解を広めるため、簡単に説明した冊子の作成やセミナーを開催する。



2 研究情報の集積と発信

(1) 静岡県立大学「茶学総合研究センター」を中心とした国内外の研究機関とのネットワーク構築

- ・ 静岡県立大学「茶学総合研究センター」を核に、茶に関する研究について、大学や研究機関とのネットワークを構築し、研究の成果について、学会やセミナーなどにより公表・情報発信する。



(2) 国際的な学会、研究会の開催

- ・ 茶学術研究や茶産業の発展に寄与するため、国際 O-CHA 学術会議、世界緑茶会議、世界茶文化学術研究会等の国際的な学会の開催を支援するとともに、国内外で開催される学会の情報集積に努める。



(3) 研究成果の一般向け情報発信

- ・ 茶の消費拡大につなげるため、茶の機能性・効用等の研究成果を一般向けに解説するセミナー等の開催や、世界お茶まつり及び (公財) 世界緑茶協会のホームページに、茶の機能性・効用等の研究成果を掲載する。
- ・ 静岡県が開発した新品種や香り高き緑茶、白葉茶等の特徴あるお茶を積極的に PR し、本県独自のお茶としての消費拡大を図る。



3 茶の歴史・文化に関する資料の収集と展示

(1) 茶の歴史や文化に関する資料や茶の産業遺産等の資料の収集と展示

- ・ 本県が歴史や文化を有する「茶の都」としての地位を確固たるものにするため、県内に残っている茶産業の発展を物語る、機具や文献等を調査するとともに、「茶の都」の拠点となる施設や県の研究機関において、一部保管・展示を行う。
- ・ 歴史的な建造物については、その価値を維持していくため、所有者に対し、登録有形文化財としての登録を働きかける。
- ・ 各地域の歴史や風俗を後世に伝えるために、資料の収集や記録を行っていく。



推進方向4 日本一の茶産地としての静岡の茶産業の振興

1 地域の核となるビジネス経営体の育成

(1) 高い経営力を持った茶業経営体の育成

- ・ 地域茶業を維持発展するためには、地域の核となる茶工場の経営力の強化を図ることが必要であり、このため、茶園の共同管理組織の設立や、茶工場組織の農業生産法人化を早急に進める。
- ・ 担い手への茶園集積を進めるため、市町や JA と連携して、農地中間管理機構の積極的な活用を図る。
- ・ 意欲のある経営体の経営発展を実現するため、マーケティング手法や経営分析などを学ぶビジネス講座やセミナーを開催し、経営力向上を図る。

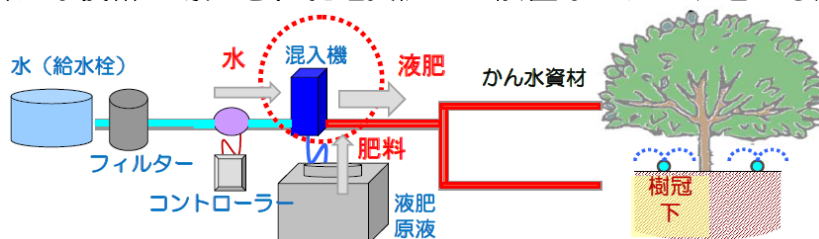
(2) 安定生産が可能な生産基盤づくり

- ・ 生産効率の高い基盤づくりのため、効果が早期に発現できる小規模な基盤整備を推進する。
- ・ 防霜ファンや製茶機械の更新については、国庫補助事業の積極的な活用を図るよう、事業制度の周知を図る。
- ・ 低コスト安定生産を実現するため、早晩品種の導入や茶園管理機械の導入など、組織経営体にあった労働配分と省力化を推進する。
- ・ 樹勢を保ちつつ、安定した生葉生産を行うために、老齢茶樹の台切や更新サイクルの体系化を推進する。



(3) 持続的な茶業の推進

- ・ 生産者の高齢化が進む中では作業の省力化を進める必要があることから、価格の高い一番茶のみに特化した省力栽培や、山間地の条件を活かした無農薬栽培などの技術の確立を図る。
- ・ 環境にやさしい持続可能な茶業を展開するため、性フェロモン剤の利用と整せん枝による耕種的防除などを組み合わせた IPM の導入や、かん水同時施肥、局所施肥などの新たな技術の導入を、現地実証ほの設置などにより進める。



2 魅力的な「静岡茶」づくり

(1) 高品質な味や香り高いお茶に加え、現代のライフスタイルに合った新たな商品の創造

- これまで緑茶の飲用機会が少なかった若い世代や、新しいライフスタイルを牽引する 30～40 歳代の女性に茶の消費を促すため、県茶業研究センターが開発した、香り高い緑茶の製法を農家等の生産現場へ普及し、多様な商品の開発を誘発促進する。
- 食品加工用等の新たな茶のニーズに対応するため、加工用原料に供給する抹茶や粉末茶などの製法の確立・普及を図る。
- 現代のライフスタイルに合わせて、簡単に美味しくお茶を飲むことができるよう、おいしいティーバッグやドリップ・ティーなどの商品化を進めるとともに、茶葉で作る冷茶の普及を図る。
- 新しい商品づくりを進めるため、(公財)世界緑茶協会が行う世界緑茶コンテストの開催や、海外におけるコンテストへの参加支援を行う。
- 多様な商品開発を促進するため 6 次産業化を推進する。



《お茶を愉しむ製品紹介》

シャープ(株) ヘルシオお茶プレッソ

「挽く・沸かす・点てる」工程を1台でこなす。

茶葉を臼で粉末にするためお茶の栄養を丸ごと摂取できる。



HARIO(株) フィルターインボトル

ワインボトル型で注ぎ口とフィルターが一体化。

食事の時、ワインのように水出し煎茶を愉しむことができる。



(2) 新たな商品の全国への情報発信

- ・ 日本一の茶産地「静岡茶」のブランドづくりを総合的に進めるため、静岡ならではの中山間地や牧之原大茶園などの茶園風景、世界遺産となった富士山など、本県の持つ魅力と一体的にPRする。
- ・ 香味のある静岡緑茶や上級茶を使用した高級ティーバック等新たな商品化を進め、ホテルやレストランでの食事会と併せたお茶セミナー等を開催し、これら商品の定着化を促進する。
- ・ 静岡茶の全国的な消費を促すため、東京、大阪、名古屋など、大消費地におけるキャンペーンを進めるとともに、緑茶消費量の少ない東北や北海道、及び地方の中心となる都市など、将来的な需要拡大が見込める地域や都市に売り込みを図る。
- ・ 静岡茶の新たな魅力として、環境保全と農業生産を両立している世界農業遺産「静岡の茶草場農法」の取組を、国内外に積極的に情報発信する。
- ・ 消費ニーズにあったお茶を生産・販売していくために、全国展開する大手流通業者や、全国の茶小売販売業者などとの意見交換会を、茶業団体と連携して行う。



(3) 安心、安全な商品づくり

- ・ 消費者へ安全でかつ安心を与える商品を提供していくため、茶業団体と連携し、荒茶工場におけるT-GAPやJGAP等の認証取得を推進するとともに、仕上茶工場における認証の取得を促す。
- ・ 緑茶の適正表示を徹底するため、荒茶工場、仕上茶工場への立入指導、及び小売店の立入と商品の表示検査を行う。また、表示に関する法改正に伴う改正内容の周知を図るため、研修会などを開催する。
- ・ 茶業団体と連携して、荒茶工場・仕上茶工場における衛生管理の指導者となる人材の育成講座を開催する。
- ・ 輸出促進をするために、輸出先の農薬残留基準情報を共有化し、防除体系を構築する。



3 茶の販売と流通の強化

(1) 効率的な販売のための流通強化と輸出促進

- ・ 多様化する消費者の嗜好・消費行動に対応するため、緑茶カフェなどお茶を楽しむ空間のコーディネートや、「癒し」や「くつろぎ」などをキーワードにお茶の香り成分を商品化する企業など、新たな視点で取り組む業種との連携を推進する。
- ・ 生産と流通が一体となった戦略的な商品づくりと販売のため、生産者と流通業者などによる協議会の設置や専門家の派遣、試験販売の場の提供などの支援を行う。
- ・ 茶の販路拡大を図るため、JAグループと連携して、静岡茶の新たな商品開発や販売促進体制を強化するとともに、これまであまり静岡茶が飲まれていない地域や、消費拡大が見込まれる全国の主要都市で商談会を開催する。
- ・ 緑茶の輸出促進を図るため、(公財)世界緑茶協会や茶学総合研究センターなどとの連携により、世界の緑茶事情に関する情報収集や、輸出に関するセミナー等を開催する。
- ・ 輸出に適した生産流通体系を構築するため、国などと連携して、各国の残留農薬規制等の情報収集を図るとともに、それに対応した生産体系の導入を、茶業団体や試験研究機関と連携して取り組む。
- ・ 海外における新たな販路開拓を進めるため、JETRO等と連携して、国際的なお茶の展示会等で(例えば日本茶の特性をクール&ヘルシィをキーワードに)PRするとともに、海外バイヤーや茶輸出業者とのマッチングを支援する。
- ・ 各国の残留農薬規制をクリアするため、試験研究機関や農業団体などと連携して、有機栽培を積極的に進めていく。



(2) 茶の集積機能の強化

- ・ 本県における茶の集積機能の中心となる(株)静岡茶市場の取扱量を増大するための方策について、JAや茶業団体などとともに検討を進める。
- ・ 品質に見合った価格で取引が行われるよう、JAなどと連携して高品質な生産維持に努めるとともに、静岡茶の魅力を全国にアピールする。
- ・ 消費者のニーズを把握するため、茶業団体と連携して、全国各地域で茶販売業者との意見交換会を実施する。

推進方向5 お茶の魅力発信と静岡らしいおもてなし

1 世界遺産（富士山、和食文化、茶草場農法）を活用した魅力の発信

(1) 茶畑のある美しい景観、伝統的農法を観光資源として活用し、国内外からの誘客を促進

- 本県が有する茶に関する歴史的資源、美しい茶園風景、富士山等の魅力を、国内外のイベントにおいて静岡茶と一体となって情報発信し、誘客を促進する。
- お茶の手摘みや製茶の体験、茶文化施設における茶道体験、景観を楽しめる撮影会やウォーキング等の本県ならではの体験型観光を進めるため、その受け皿を整備する取組に対し支援する。
- 茶農家が行う農家民宿などに対し、専門家による経営アドバイスや、誘客を促進するためのガイドブックや情報誌への掲載などによる運営支援を行う。
- 旅行会社やメディア等を招聘したモデルツアーを茶業団体と連携して実施し、静岡のお茶の魅力を広くPRし、誘客を促進する。
- 茶に係る海外の世界農業遺産と連携して、静岡茶の情報発信の強化を図る。
- 海外からの来訪者への利便性向上のため、パンフレットなどでは多言語の表記を促進する。



(2) 和の食文化とお茶を一体的に発信

- 和の食にお茶は欠かせないものであることを周知するため、ふじのくに食の都づくり仕事人などと連携して、イベントにおいて、料理とお茶のセットを提供する。



2 お茶で迎える静岡らしいおもてなし

(1) おいしいお茶を提供する飲食店や宿泊施設の増加

- ・ 静岡を訪れた誰もがおいしいお茶を飲むことができ、茶の都としての評価が高まるよう、関係団体と連携して、お茶を提供する施設を対象に、静岡茶の魅力や茶の機能性・効用などについての理解を深めるセミナーや出前講座を行う。
- ・ 農家民宿での茶摘み体験や製茶体験等の体験プログラムの整備を支援し、茶産地での滞在客を増やす。
- ・ 駅や空港、ホテル等観光客の集まる場所で、簡便でおいしい緑茶のティーバッグやドリップティー等を販売し、新しい形態での静岡茶をPRする。
- ・ 駅や空港において、茶の都にふさわしい雰囲気醸し出すための装飾やしつらえなどの整備について、市町や関係機関、関係者などと検討し進める。



(2) ふじのくに食の都づくり仕事人との連携

- ・ ふじのくに食の都づくり仕事人による本県の豊富な食材を活かした料理とおいしいお茶の提供など、お茶と和の食文化を一体的に発信する。

3 グリーンティーツーリズムの推進

(1) 観光産業と連携したグリーンティーツーリズムやお茶の魅力に触れる機会の拡充

- ・ 各茶産地における観光客の受入体制づくりを進めるため、産地と旅行会社との情報共有を図る機会を創出する。
- ・ 県内各地の茶関連イベントをデータベース化し、茶関連団体、旅行会社、マスコミ等と共有し、各イベントの活性化及び観光客の増加を図る。
- ・ 観光客の満足度を高めるため、細かな地域の情報を提供できるグリーンティーツーリズムガイドの養成や、ガイドマップの作成などを、外国語での対応を含めて、市町や関係団体と連携して進め、静岡らしいグリーンティーツーリズムの普及を図る。



(2) 茶生産地ならではの体験等を通じた静岡茶のファン作り

- ・ 茶の香り漂う新茶ウォーキングや茶摘み体験や撮影会など、茶産地ならではの体験ができる機会を、茶業団体や市町と連携して増やすとともに、拠点においてこれらの情報の集積発信を図る。
- ・ 旅行会社等と連携して、交通利便性のある JR 駅や、空の玄関口である静岡空港を出発地とするモデルコースを設定し、静岡のお茶の魅力を多くの人に体感してもらう。



4 茶の機能性や効用を学ぶ場づくり

(1) 茶の機能性や効用、茶と健康長寿についての体験

- ・ 誰もが、お茶の持つ機能性や効用について、分かり易く学ぶことができる場を設置する。
- ・ 効用や機能性について関心を持つきっかけとするため、茶摘みや製茶体験ができる機会の創出を図る。
- ・ 小中学生に対して、茶を飲むことの効用などの知識を深めるため、茶業団体や市町と連携して出前講座や、分かり易く解説した冊子の配布などを行う。



推進方向6 人材の育成と組織連携

1 人材の育成

(1) 教育分野と連携した茶育の推進を通じた「茶の都人」の育成と、お茶に親しむ環境づくり

- ・ 子どものころから茶に親しむ機会を増やすため、生産者、日本茶インストラクター協会、学校、茶文化施設などと一体的に、茶育活動を推進する。
- ・ 子供たちの茶生産への理解を深めるため、茶業団体や教育委員会などと連携し、日本茶インストラクターなどによる小中学校におけるお茶の講座や、茶摘み・製茶・淹れ方などが体験できる機会を創出する。
- ・ お茶を通じた和の食文化、食と健康への関心を高めるよう、学校給食へのお茶の導入を教育委員会や茶業団体と連携して進める。
- ・ お茶への理解を深めるため、産地の特徴あるお茶を実感できる闘茶会や、お茶の知識や淹れ方の技術を競うコンテストを、生産者や茶業団体と連携して開催する。



(2) 静岡県立大学「茶学総合研究センター」を活用した「茶の都」をけん引する人材の育成

- ・ 茶業関係者の経営能力向上のため、マーケティングや経営の専門家によるセミナーを開催する。
- ・ 茶の総合的な知見を有し、これからの茶の都を支える人材を育成するため、静岡県立大学「茶学総合研究センター」において、学生や一般県民を対象にした講座を開催する。
- ・ 次世代を担う生産者や茶小売業者など産業に携わる人を対象に、茶の文化や歴史、生産など幅広く学ぶ講座を、「茶学総合研究センター」や関係団体と連携して開催する。

(3) 日本茶インストラクター協会等と連携した日本茶文化の継承と新たな茶文化を創造する人材育成

- ・ 日本茶の正しい知識を得てもらうため、日本茶インストラクター協会と連携し、県民を対象に講座やセミナーなどを開催する。
- ・ 日本茶の正しい知識を教え伝えることができる人材としての日本茶インストラクターや日本茶アドバイザーを養成する活動を支援するとともに、イベントやセミナーを活用して、日本茶インストラクターなどが活躍できる場の創出を図る。

2 茶関係団体が一体となった取組

(1) (公財)世界緑茶協会が有する海外ネットワークの活用

- ・ (公財)世界緑茶協会の会員や交流のある海外茶業団体のネットワークなどを活用し、世界のお茶に関するニュースや生産・消費などの状況についての情報の集積発信を、お茶の総合情報サイトである「O-CHA ネット」や、(公財)世界緑茶協会の会員向けのメールマガジンなどを活用して行う。

(2) 茶の生産、流通、機械、文化などに関する団体が連携した消費拡大、魅力発信に向けた積極的取組

- ・ 多様化する消費者の嗜好に対応するため、6次産業化などの取組を推進し、商工業者など異業種との連携を図り、お茶に新しい魅力や価値を付加して消費拡大を図る。
- ・ 静岡茶の消費拡大を図るため、生産や流通に関する茶業団体などを構成員とする協議会と連携して、消費地でのキャンペーンや商談会などを行う。



3 市民活動との連携

(1) 各地域で活動している市民団体との連携による人材育成

- ・ お茶の知見を有し、茶の都を支える多くの人材を育成するため、文化や産業、観光などの分野において県内各地域で活動している団体やグループの活動紹介や、研修会・交流会などへの参加促進などを行い、人材育成につなげる。
- ・ 歴史・文化・学術など専門知識を持った人材をリスト化するとともに、市民団体が主催する各種イベントや研修会などにおいて、活躍の場を創出する。
- ・ 来訪者に茶に関する観光資源の価値を分かり易く伝えるため、市民団体と連携して、ガイドの養成を図る。



推進方向7 ふじのくに「茶の都しずおか」から国内外に発信

1 世界お茶まつりの開催

(1) 茶の「産業」「学術」「文化」に関する総合イベントとして、国内外に情報発信

- ・ お茶の世界的な普及を推進するため、生産や消費の動向、新しい茶文化、機能性などに関する最新の研究成果など、世界のお茶の「産業」、「文化」、「学術」に関する情報の集積発信の場となる「世界お茶まつり」を引き続き開催する。
- ・ これまで、あまりお茶を飲まなかった若い世代にも受け入れやすくするため、おしゃれ感覚にお茶を楽しむ飲み方の提案や、新しい商品の情報を発信する。
- ・ 「世界お茶まつり」を通じて、本県茶業の振興を図るため、香り高い緑茶や発酵茶などの新しいお茶の情報発信や、輸出に繋がる海外バイヤーとの商談会を開催する。
- ・ お茶の機能性や効用についての研究を促進するため、世界の研究者が集まり、研究成果を発表する会議等を開催する。



(2) お茶を通じた国内外の交流促進

- ・ お茶を通じて日本の魅力を世界の人々に知ってもらうため、日本伝統の茶の湯文化や、日常的に飲まれている煎茶など、日本人とお茶の関わりを「世界お茶まつり」において世界に発信する。
- ・ 煎茶・抹茶の各流派の協力により、体験なども含め、お茶で迎える静岡らしいおもてなしを行う。
- ・ 各国の茶の嗜好に関する情報等を収集するために、国際会議等を開催し、意見交換や交流促進を行う。
- ・ お茶についての嗜好が多様化していることから、各国から新しいお茶の愉しみ方の提案などを行い、新たな茶文化による交流の促進を図る。
- ・ 茶の歴史的資源や美しい茶園風景など、本県が有する豊富な茶の資源の情報発信に努めるとともに、これらを活かしたツアーなどを実施する。
- ・ 世界お茶まつりにおいて、世界遺産である「富士山」や「和食」など本県の魅力を広く伝え、幅広い分野での交流促進につなげる。



2 (公財) 世界緑茶協会による情報の集積と発信

(1) 海外の茶関連団体とのネットワークの強化 (国際茶協会 (イギリス)、全米茶業協会、中国国際茶文化研究会、世界茶連合会 (中国) など)

- ・ (公財) 世界緑茶協会の世界における認知度や信頼性を高めるために、海外の茶関連団体との交流や国際会議への参加により、国際的なネットワークを強化していく。

(2) 海外でのイベントやウェブサイト等を通じた日本茶の魅力発信

- ・ 日本茶の魅力を海外の多くの人に知ってもらうため、海外におけるイベントへの積極的な参加や、民間団体や企業の参加の促進を図る。
- ・ 他国言語によるホームページの作成や、SNS などにより、機能性や効用、茶の湯文化や美しい茶器、多様なお茶の種類など、日本茶の様々な魅力を世界に発信していく。



推進方向8 ふじのくに「茶の都しずおか」の拠点づくり

1 「茶の都」の中心としての機能を持った拠点づくり

拠点づくりの方針

○「島田市お茶の郷」を、ふじのくに「茶の都しずおか」の拠点として整備する。

- ・ 日本の茶文化を中心に、広く茶全般について学ぶことができる施設とする。
- ・ 茶の歴史文化や、世界のお茶と対比した日本の茶に理解を深めてもらう施設とする。
- ・ 周辺施設等と連携を図り、拠点としての機能を高める。
- ・ 茶の手揉みや生産工程の見学など、文化や産業に関する体験ができる施設とする。
- ・ 茶の産業に関わっている人々の研鑽の場とする。
- ・ 茶と健康長寿など機能性に関する情報を発信する。



文化

(1) 世界の茶文化に関する情報、資料の収集展示

- ・ 「茶の都」として、世界の茶文化の情報をいつでも手に入れ、身近に感じることができるように、拠点では、世界の茶葉の展示のほか、世界各国の喫茶文化の展示や喫茶体験を提供する。



(2) 伝統的な茶の湯文化等と新しい茶文化の発信

- ・ 日本の伝統文化を多くの人に伝えるため、小堀遠州ゆかりの庭園と茶室の中で、抹茶、煎茶など幅広い茶文化の体験を提供する。
- ・ 「島田市お茶の郷」が有する庭園や茶室の魅力を伝える仕組みづくりを行う。



(3) 茶と関連した和食文化の展開

- ・ 和食文化における茶の関わりを感じられるように、茶の湯や茶懐石などが体験できるような場とする。

学術

(1) 茶文化の調査研究や学術情報の集積と発信

- ・ 静岡茶が名声を得るまでになった経緯や時代背景を後世に伝えるために、文献や茶の産業遺産等の調査研究を行う。

(2) 茶の歴史・文化資料や産業遺産等の収集と展示

- ・ 貴重な茶資源が失われるのを防ぎ、その歴史的価値を広く知らしめるために、茶の歴史の展示や映像紹介、茶道具の展示、茶の産業遺産の収集と展示などを行うとともに可能な限りその動態保存に努める。



(3) 茶の科学的研究、情報の収集と発信

- ・ 国内の研究者が研究情報について随時入手できるようにするために、国や県の研究機関や大学の茶に関する研究成果について、成果報告の書籍の収集や電子データ情報の閲覧ができるようにする。
- ・ 研究者や関係団体等が、互いの研究成果について詳細な意見交換を行うために、学術研究会やセミナーを開催できるようにする。

産業

(1) 国内外の茶や茶関連商品の販売や新商品の情報発信

- ・ 茶業団体や大学、試験研究機関、企業等と連携し、茶に関する新商品や関連商品の情報集積を図る。
- ・ お茶の魅力を高めるため、国内のお茶だけでなく世界のお茶を収集・展示する。
- ・ 茶関連業者の積極的な商品開発につなげるために、味や香りに特徴のある新しいお茶などをテスト販売し消費者の反応を調査する。
- ・ 消費者の買う楽しみを増やしていくために、茶を用いた菓子、茶の香りの商品、伝統的な茶器、新しい茶器など茶関連商品を販売する。
- ・ 次世代を担う生産者や茶小売業者など産業に携わる人を対象に、経営改善に役立つための講座を開催する。



観光

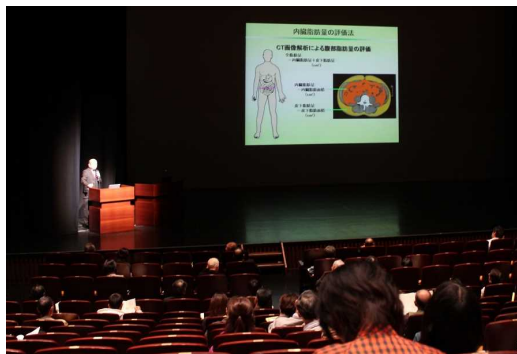
(1) 茶産業の体験や学習、茶を活用したグリーンティーツーリズムの展開

- ・ 観光客などが、拠点の周辺でグリーンティーツーリズムを体験できるように、周辺の施設や観光資源（例えば南アルプスエコパーク、大井川鉄道など）と連携して、お茶に関する観光情報などを提供する。
- ・ 「茶の都人」育成のために、体験や学習のできる体制を整え、県内の小中学校の社会科実習の受入れを行う。
- ・ 静岡ならではの体験をしてもらうために、茶に関する企業や工場の見学や茶摘み及び茶の手揉み体験の情報提供を行う。



(2) 茶の機能性や効用、茶と健康長寿について学ぶ場

- ・ 多くの人に茶の機能性や効用、茶と健康長寿について知ってもらうために、解説資料の展示を行う。
- ・ 茶の機能性や効用を感じることが出来る体験ツアーを周辺施設と連携しながら企画する。



<参考資料>

1 ふじのくに「茶の都しずおか」推進会議（委員9名）

（敬称略）

氏名	分野	履歴等	備考
熊倉 功夫	文化	静岡文化芸術大学学長	会長
中村 羊一郎	文化	静岡産業大学客員研究員	
谷 直樹	文化	大阪市立住まいのミュージアム館長	
大谷 宗玄	文化	静岡県茶道連盟会長	
榛村 純一	産業	(公社)静岡県茶業会議所会頭	
土屋 葉	産業	うおがし銘茶(株)企画室広報	
土屋 裕子	産業	生産者・日本茶インストラクター	
木苗 直秀	学術	静岡県立大学学長	
小泊 重洋	学術	島田市お茶の郷博物館初代館長	

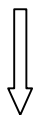
2 経過

【平成24～25年度】

「茶の都しずおか」構想検討会（熊倉功夫委員長）

ふじのくに「茶の都しずおか」構想 策定（平成26年3月）

○8つの推進方向



- ・産業 ・文化 ・生活 ・学術 ・観光
- ・人材育成 ・情報発信 ・拠点づくり

【平成26年度】

ふじのくに「茶の都しずおか」推進会議

第1回（7月16日） 「8つの推進方向」に基づく施策展開を協議

第2回（11月19日） 「茶の都しずおか推進計画」案の検討

第3回（2月5日） 「茶の都しずおか推進計画」のまとめ

静岡県経済産業部 農林業局 茶業農産課

〒422-8607 静岡市駿河区南町 14-1

水の森ビル 3階

TEL:054-202-1488

FAX:054-202-1480